

市政について
問う！

一般質問

「代表質問」

第十二回（二月）定例会では、令和八年度の市政に対する代表質問が行われ、五つの会派及び無所属の議員から質問がありました。

※代表質問は「一括質問一括答弁方式」で実施しています。
※無所属議員は、三名以上の会派の了承を得た上で、同会派の発言時間を使って質問することができます。



全ての質問項目
(通告一覧)
はこちら



志政会
浅原 和美

二次保健医療圏域における市立病院の役割と課題は

問 二次保健医療圏域における市立病院の役割と課題についての認識は。
答 市長／市立病院は、二次保健医療圏域における基幹病院として、地域の急性期医療を基軸に、三次救急や小児周産期医療などの行政的医療を担い、周辺自治体も含めた広域的な医療需要を支えるなど、地域医療において極めて重要な役割を果たしている。一方、人材の確保や施設の維持管理、医療機器の更新など様々な負担が生じており、課題解決が求められている。そのため今後も要望や情報共有等を通して、国や県、周

辺市町と連携しながら、地域医療提供体制の維持に努めていく。
問 長年の念願であった鉄道高架本体工事の着手に対する市長の所感は。
答 市長／長年の構想が具現化され、大変感慨深く、身が引き締まる思いである。本工事に着手したことで、市民や民間事業者の期待が一段と高まり、中心市街地の再開発など、まちの更新が加速している。今後も、これまで以上に、国、県、鉄道事業者との連携を強化し、市民の協力を得ながら、早期完成に向け、事業推進を図っていく。



市民の負担軽減につながるごみの分別方法の見直しの考えは

問 市民の負担を軽減するために、ごみの分別方法を見直す考えは。
答 市長／全国に先駆けてごみの分別を実施した沼津方式は、市民が先人たちと共に、長年にわたり築き上げてきた誇るべき財産であり、市民の環境に対する意識が高いことの表れである。その趣旨は、今後とも尊重していかなければならないと考えているが、今、行政に求められていることは、高齢者等への対応や自治会の負担軽減をはじめ、将来を見据え、市民だけではなく、本市に移住・定住を考える人や外国人居住者にと

っても分かりやすい分別方法を検討し、実施していくことである。以上のことから、持続可能な社会の実現を念頭に、リサイクルの後退を伴うことのないよう配慮しつつ、誰もが分かりやすい分別方法を再構築していく一方で、段階的に分別を変更した場合に生ずる混乱や市民の負担増を避ける必要があると考えている。そのため令和八年度には、自らが先頭に立って、ごみの分別方法の見直しの検討に着手し、できるだけ早期に、新たな分別方法及び移行時期を示していきたいと考えている。

志政会
加藤 明子

複合リスク時代における全庁的リスクマネジメント体制は

問 複合リスク時代における本市の全庁的リスクマネジメント体制に対する考えは。
答 市長／地方自治体を取り巻く環境は、人口減少・物価高騰・自然災害の激甚化など、刻一刻と変化し、変革と対応が求められる時代となっており、市政運営に当たっては、時代の変化や課題などを捉えた上で、複合リスクマネジメントの視点を持つて対応していくことが必要であると認識している。そのため、全庁的リスクマネジメントとして、緊急性や重要性、費用対効果などを考慮し

た事業の選択と集中により、重点的かつ効率的な取組を進めていく必要がある。第五次沼津市総合計画に示した施策の推進に当たっては、プロセスマネジメントにより進捗状況等を検証し、PDCAサイクルの徹底を図るとともに、組織体制などに反映している。令和八年度は、危機管理監の直下に防災幹を置き、災害対応体制を強化する。このように、時代の変化や課題を踏まえ、柔軟かつ組織横断的な視点を持って、事業や組織体制などを見直すことで複合リスクに対応していく。

志政会
渡邊 博夫